

中京区基本計画検討ワーキンググループ 第5回会議開催報告

■「中京区基本計画検討ワーキンググループ」第5回会議を開催しました！

1月22日に「中京区基本計画検討ワーキンググループ」の第5回会議を中京消防署で開催しました。当日は、これまで議論してきた「まちづくり戦略」について確認し、ワーキンググループの骨子案としてまとめました。

また、次期中京区基本計画の「計画推進の仕組み」について、

- ① 中京マチビト Café や中京クーチャーセンターなどの仕組みを強化するためのアイデア
- ② 広報に関する改善点や新しいアイデア
- ③ 新しいプロジェクトに関するアイデア

の3つのグループに分かれて議論しました。主な意見については以下のとおりです。

◎当日の主な意見

① 中京マチビト Café や中京クーチャーセンターなどの仕組みを強化するためのアイデア

※ 多様な人の「巻き込み」、課題に取り組む「主体の形成」、多様な人が集い刺激を受けながら新たなプロジェクトを生み出す「創発」の仕組みづくりの3つをキーワードにアイデアを出し合いました。

- 多様な人の「巻き込み」
 - ・ SNS (Twitter, Instagram, Facebook など) や若者向け広報の強化
 - ・ ネットワークを広げるには、キーパーソンからキーパーソンに情報がつながるよう働きかけていけばよい。
 - ・ テーマや課題を明確にした場づくりをし、既に活動している人を呼び込む。
 - ・ 拠点を設ける。難しい場合は、定期的にイベントを開催することでもよい。
- 課題に取り組む「主体の形成」
 - ・ まちづくり活動をしたい人に、人材紹介やアドバイス、ノウハウの提供ができる窓口を作る。
 - ・ 活動したい人と支援したい人をマッチングできる場があればよい。
 - ・ 資金面のサポートがあればよい。
- 「創発」の仕組みづくり
 - ・ 対話を促すまちづくりファシリテーターなど人材の育成が必要
 - ・ 外国人や芸術家など多様な主体に参加してもらうことで新たな発想が生まれる。
 - ・ 対話にふさわしい場をつくるには、色調など空間のしつらえも意識した方がよい。



裏面に続きます ⇒

◎当日の主な意見（続き）

② 広報に関する改善点や新しいアイデア

- ・ 基軸となるメインターゲットを設定したうえで、方向性を考えていくのが基本である。ターゲットを絞れないのであれば、ターゲットに応じたツールを増やし、使い分けていけばよい。
- ・ 市民しんぶん区版は内容が充実しているのを読んでいる人は多く、さらに、人によって様々な方法で活用もされている。例えば、子育て世帯は、イベントの記事をスマートフォンで撮影し、友達と共有しているようだ。
- ・ SNSは有効だが、毎日更新しないとすぐ飽きられる。とにかく毎日アップすることが重要である。
- ・ ホームページのコンテンツとSNSを連動させるなどすれば、手間を省きつつ、更新の頻度をあげることができる。
- ・ 子育て世代の若い主婦層は、インフルエンサーとなる人の発信をフォローすることで情報を入手している。インフルエンサーを巻き込むことが重要だ。
- ・ イベント情報は事前のお知らせだけでなく、事後のフォローも必要。「区民サポーター」を募集して、イベントの体験記（写真と感想）をSNSで発信してもらうなども面白い。

③ 新しいプロジェクトに関するアイデア

※ 今回は、ごみを減らすため『1サイズ小さいごみ袋を使おう』というプロジェクトを進めると仮定した場合、どのようにプロジェクトを進めていけばいいかについて議論しました。

- ・ かつこよく広報することで、無関心層にも興味を持ってもらう。
- ・ 今ごみの減量に取り組まないと、地球の未来が大変だという危機感を喚起させることも大事だ。
- ・ 実現した時の理想像をみんなで共有できるようにする（イラストや動画など）。
- ・ 子どもに対して積極的に働きかけると、親も付いてくるし、子どもが成長した際には、率先して実行してもらえる層にもなる。
- ・ 個人でやっても達成感が感じにくいので、最初は町内やグループごとにモデル的に実施していくべきだ。
- ・ 家の前で収集してくれるのは、運ぶ手間があまりかからないが、逆にごみを減らすインセンティブにつながらない。
- ・ いつものごみ袋とは違う色で実施してみると、注目も浴びるので効果的ではないか。

